

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和3年度 5月号

代表委員会の成功が示してくれたもの

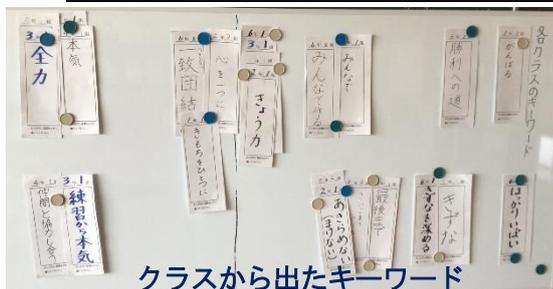
コロナ禍でさまざまなものごとが様変わりをしました。「急激に変化する時代」「予測不可能な時代」に備えるための新学習指導要領でしたが、一足飛びにそうした時代が始まってしまったのです。今年1月に示された中教審答申では、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を具体的にいくつか示しています。

その一つに

対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力 があります。



代表委員会



クラスから出たキーワード

運動会のスローガンを考える、代表委員会がそうでした。昨年までは、各クラスで考えてきたものを代表委員会で絞り込んでいく話し合い、いわば引き算型です。

それに対し、今年は、スローガンに盛り込みたいキーワードを持ち寄り、思いを共有しながら、スローガンを作っていく形、足し算型です。

クラスでの話し合いには、どの子にも

運動会を自分ごととしてとらえてほしいという教師側の願いがありました。

代表委員会では、丁寧に準備された司会チームのすばらしい進行と、高学年の真摯な姿に感化され、初参加の3年生もしっかり発言できました。引き算型の話し合いでは、自分たちがいいと思って提案したスローガンばかり、そこに優劣はなく、そもそも絞れるわけがないのです。昨年までの子どもたちには、申し訳ないことを強いていたな、と反省します。



足し算型の話し合いでは、すべてのクラスの案がスローガンを形づくるエキスとして生かされました。私たち大人が思うよりずっと、御小の子どもたちは次代を担うための資質・能力をもっているのです。それを引き出し、生かすのが大人の役割だと再認識させられるできごとでした。

こんなにも一生懸命な子どもたち 運動会ができますように

この原稿を書いている今、学校の隣の学童保育さんから、1年生の子どもたちの元気なエールが聞こえてきます。自主的な応援練習?……朝や昼休みにリレー練習をする姿も。

新型コロナ第4波が近隣市にも押し寄せている中ですが、今一度、学校もそしてご家庭でも感染防止が正しくできているかを見直し、運動会が無事に開催できるよう力を貸してください。

うれしい悲鳴 育ちすぎたアカウミガメ 放流を早めます

かつてないほど大きくなった19頭のカメたちが、市から配当していただいた1年分のエサ代を1か月半で食べ尽くしてしまいました(涙)。水槽の容量も心配なので、カメ博士とも相談し、放流を1か月早めることにしました。

海水温も上がりそうな6月4日(金)に実施予定です。

(「カメの食欲は仁平さんに似たんだね」と言われ、ショックな校長 仁平美和子)

